

授業概要

「教授・学習心理学」は富田が単独で担当する、後学期火曜4限の通常開講の授業である。平成28年度は、メタ認知をテーマとして展開した。まずメタ認知の概念的な理解に始まり、相互教授法やルーブリック、プロジェクト法、ポートフォリオ等、それを育成するための様々な手だてを紹介した。その後、小グループを作り、メタ認知を育成することを意図して教科单元などの学習活動の設計に取り組んだ。最後にそれぞれのグループの成果物を発表し、あらかじめ用意したルーブリックで相互評価を行った。

調査概要

DP 対応学生認識調査の結果を主に用いた（登録24名、回答22名）。また、比較のために、平成26年度後期に実施したDP対応学生認識調査の結果も用いた（登録25名、回答19名）。

結果

表1は平成28年度の結果を、表2は平成26年度の結果を示している。一番左の縦の列は1A～5Bは教育学部のDP（平成27年度以前の入学生向けのもの）に対応している。

表1 平成28年度の調査結果 (N=22)

	1	2	3	4
1A	10	10	1	1
1B	9	10	1	2
2A	3	17	2	0
2B	4	16	1	1
3A	7	15	0	0
3B	6	12	3	1
4A	9	10	3	0
4B	7	12	2	1
5A	4	11	5	2
5B	3	9	7	3
時間外学習 (課題)	平均 0.55 hrs			
時間外学習 (自発)	平均 0.36 hrs			
自発的読書	平均 0.77 冊			
自発的活動	平均 0.36 件			

表2 平成26年度の調査結果 (N=19)

	1	2	3	4
1A	8	11	0	0
1B	8	9	1	1
2A	7	9	3	0
2B	7	10	1	1
3A	9	10	0	0
3B	7	8	3	1
4A	7	11	1	0
4B	13	5	1	0
5A	3	9	4	3
5B	2	15	1	1
時間外学習 (課題)	平均 1.55 hrs			
時間外学習 (自発)	平均 0.74 hrs			
自発的読書	平均 3.79 冊			
自発的活動	平均 0.53 件			

各表の一番上の行は、この授業が DP に対応していると思うかという問いに対して、1 とてもそう思う、2 ある程度そう思う、3 あまりそう思わない、4 DP と無関係であるという 4 つの選択肢に対応している。

2 つの表の比較によって分かるように、DP への対応については年度間でほとんど差がなかった。

他方、時間外学習については、平成 26 年度と比較して、課題に費やす時間も自発的におこなった学習の時間も共に大幅に減っていることが分かる。授業に関連した文献を読んだ数についても大幅に減っている。

#### 考察

どちらの年度も学生による主体的な活動を種とした授業設計であったが、平成 28 年はメタ認知を育むような手だてを 1 つ以上選んで、それを活かした授業を考案するという比較的狭い範囲での課題を設定した。このことから、今回はテーマを絞り込んで利用すべき知識をある程度特定することによって学生の自発的な学習の量が減ったのかもしれない。

#### 今後の改善案

プロジェクト学習におけるテーマや知識領域の設定は、授業目的によって必要になってくる。従って、今回のように比較的狭い範囲に絞り込んだ上での学習活動においても、学生の自発的な学習を促進するような働きかけをより積極的に導入する必要があるだろう。以下はそのための試案である。

- 毎回の授業で発展的な学習のための文献を紹介する
- 学生が自発的に読んだ文献について、

学生自身に紹介してもらう機会を設ける

- 毎回の授業の終わりに、その授業に関連して、どのようなことをさらに学んでみたいか尋ねて、自発的な発展的学習を促す

#### 地域社会を核とした教育と研究の繋がり

本授業は、担当教員が地域の学校でおこなっている学校視察や助言指導を通して把握している現状や今後の課題に対する認識に関連させ、受講生が将来の教員として、それらの課題を解決に積極的に取り組めるような視点や具体的な手だてを身につけることを狙っている。そのような意味で、この授業の内容は地域社会における教育の現状と課題に結びついたものであると考えられる。